

ちばしや通信

Vol.14

【トピック】

- ♪ 新企画「寄り添うケアのはじまり」
- ♪ 連載「心地よい関係性のバランス」
- ♪ 私の子育て奮闘記
- ♪ つれづれなるままに
- ♪ 各種イベント案内
- ♪ “ときがね”なひととき
- ♪ 法人からのお知らせ

寄り添うケアのはじまり

「川野さんごめんなさい①」

私は、これまで沢山の失敗をしてきました。

もちろん、嬉しかったことも沢山ありましたが、後悔のほうが多いです。言い換えれば後悔したケースが、それだけ印象深く残っているということかもしれません。

平成7年にデイサービスセンターの生活指導員として勤めたのが、今の介護の仕事の始まりです。仕事を始めて間もなく中学時代の恩師に名刺をもって挨拶に行きましたが、「生活指導員？お前が指導されんといかんぞが！」と一喝されたことを今でも覚えています。最終学歴は、表向きは福岡大学商学部。でも実態はアルバイト学部お好み焼き学科卒業です。4年間ひたすらお好み焼きを焼いてました。そして、就職したのは不動産会社。沢山の人と出会いたい、粹

でいなせな不動産屋を目指し、上京しました。しかし、鹿児島弁と博多弁の入り交ざった可笑しな言葉しか使えないことがバ

レて、すぐに福岡支店に移動させられました。仕方ないです。それから数年、不動産やリゾート会員権の営業に明け暮れてました。その後、身体を壊し、鹿児島に帰り、何の資格も無い私を拾ってくれたのが保育園の理事長先生です。「子供とお年寄りが日常的に触れ合う場所を作りたい」理事長の熱い思いに感動し就職させて頂きました。福祉の「ふ」の字も知らずただ楽しただけを求めてこの仕事に着いて、もう19年。若く、飛び跳ねていた生活指導員も、今ではすっかり「おっさん」の領域に入りました。

初めて出会ったのは、認知症の川野さんでした。

「おはんな、いけんすや、好かんでも○○や！ あたいや、好かんてな、〇も見せん」と毎回送迎車から歌いながら降りてこられます。みんなの前で滑稽な踊りや歌を披露し、みんなが笑うと更に、その踊りは調子づく。

「女のくせに男の服を脱がすとはなんか！」と怒り出す。温泉なら入ってくれんじやないかと息子さんが連れていくと、やっぱり脱衣場で大声で怒り出すとかなりご家族は困っていたようです。確かに歌はうまく歌われますが、会話は繋がりませんでした。しかし、奥さんは「認知症はあるけど、これまでお父さんには大事にしてもらった。これからもずっと一緒に暮らし続けたい」とおっしゃっていました。

そんな川野さん、デイサービスでもお風呂に簡単に入るわけがありません。私も初めて接する認知症の方で、どうしたら良いのか全く解りませんでした。

奥さんの希望になんとか応えたいと必死になりましたが、必死になればなるほど本人の怒りを買うばかりです。結局、私の気持ちは「お風呂に入って欲しい」更には「お風呂に入りたい」にどんどん変わっていったのです。

そのようなことが3カ月ほど続き、このままじゃもっとお風呂が嫌になるし、私達のこととも嫌いになるだろうと思ってお風呂のことは抜きにしてもっと川野さんに自分を知ってもらおうと思いました。一緒にいる時間をたくさん作りました。川野さんはうっとおしいと思つた事もあつたかも知れません。ある日、二人きりでドライブに行きました。歌と一緒に歌いながら町内をドライブし、スーパーに寄って一緒にオレンジジュースを買って飲みました。あのオレンジジュースの味は今でも忘れません。そして、また一緒にデイサービスセンターに帰り、そのままお風呂場に行きました。「川野さん、一緒にお風呂に入

りましょうよ」と先に私のほうから服を脱いで入りました。すると川野さんも「そうね」と言いながら自分で服を脱ぎ一緒に入ってくださいだったので。お風呂に一緒に浸かりながら「いい湯だな」を歌いました。しばらくすると「シヨンベンをしよう」と言われたので、「上がってトイレに行きましょうか?」とお誘いしましたが、「ここで良い」と排水溝めがけてシャワー。「お前もせんか!」と言われるので二人並んでシャワー。最高の連れションでした。あの時のことは今でも鮮明に思い出されま

す。
「ヨッシャー」つとスタツフみんなで感動し、これからがもつと楽しみになると感じた瞬間でした。

しかし、この出来事も後から思えばつかの間の喜びでした。

(つづく)

黒岩尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食べさせて貰いなんとか生きていたが朝、突然、顔面神経麻痺になり帰鹿。リハビリの甲斐あってか、無かったか1年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



福祉絵本「おじいちゃんは人気者」
(1冊：300円)

“福祉有償運送事業” を開始します！

◆対象者

- ・身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者
- ・その他肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害その他の障害を有する方

◆ご利用方法

ご利用されるためには、会員登録が必要になります。登録料はかかりませんが、年会費が3,000円かかります。ただし、年度の半分を越えて加入した会員については、年会費の半額とします。利用時は事前にご予約が必要となります。

※ご利用を希望する方、興味のある方は、スピリッツまでご連絡ください。

◆ご利用料金

- ・東金市内：固定 / 300円
- ・東金市外：固定+時間単位 / 300円 + 時間単位 (15分) 300円

※有料道路料金等、必要経費が生じたときは、利用者が負担します。

◆ご利用範囲

東金市、大網白里市、山武市、九十九里町、芝山町、横芝光町
※それ以外の区域については応相談とします。

◆車両

車イス対応のダイハツハイゼット

心地よい関係性のバランス

第2回 おばちゃんといきスパートの間にあるバランス感

まちでヘルパー探しをする癖がついてしまった。障害者福祉センターなどではもちろん、病院の待合室、ショッピングセンター、公園、いろんなところにヘルパーが出現している。最近では、ヘルパーとデイサービス職員とグループホームの職員が、「つぼさ」でわかるようになってきた。カジュアルなスタイルにネームをぶらさげているとヘルパーっぽいと感じ、制服姿で車いすを押しているとデイサービスの職員っぽいなど、年配の男性がポーチを小脇にかかえ、やけに丁寧な複数のより年配の人と買い物をしている姿を見ると、グループホームの職員っぽいと勝手に決めつけて納得している自分に気づき苦笑いをする。

それにしても、この「つぼさ」の根拠はどこにあるのか。最初

はあの一日瞭然のユニフォームのせいだと思っていた。しかし、そうでもないヘルパーもすぐに見分けがつく。首にぶらさげたネームだろうか。いや、そんなものがなくても感じてしまう。いったい何がそんなに「つぼい」のだろうか。そんなことを考えながら、ある日介護中の自分の顔がガラスに映ったのを見てギョツとした。そこには見たこともないヘルパースマイルの私が立っていたのだ。「これだ！」と納得し、またしても苦笑いをした。

病院の待合室で車いすを押す若い女性。ヘルパーっぽいな。孫ではない。絶対に。ショッピングセンターでオープン時間から間もないというのに腕を組んでぴったり寄り添う若い男女。片方は障害者。カップルではないな。きょうだいでもない。あ

れは業者だ。間違いない。その証拠に、独特な営業用スマイルを身につけている。気になる私はずいぶん追う。そしてまちの人々は障害のある人に関わらない。気のせいかもしれないけれど、ヘルパーさんが連れてくる人に親切にしたり、お節介をやいたり、手を貸したりする人はいない。「つぼさ」がバリアになっている。

私がぴっころを開設した頃は、障害児を専門とするヘルパーはこの辺りには皆無だった。なので、たいてい母親と間違えられた。私を母親と間違えた市民に理不尽に非難されたこともあれば、情け深い言葉をかけられたこともある。迷惑な人も、応援したい人も、とにかく珍しい親子に声をかけたものだった。そういえば最近は何んだかちよつと変わってきたかもしれない。専門家が世の中に増えることで、一般市民は何か専門家に手出しをしてはいけない

ようなそんな気分になるのだろうか。ヘルパースマイルは余裕の証拠である。おそらく母親に見間違えられた私は必死の形相だったに違いない。最近はいって余裕の笑顔で仕事をしている。そして、この余裕の笑顔が社会と障害者のバリアになっているとしたら、少し複雑な気持ちになる。

私たち介護業者は専門性の高い支援をするために日夜努力を重ねている。しかし、皮肉なことにその専門性や営業努力が会社との障壁になっているとしたら、いったいどうすればいいのだろうか。専門性なんか放棄して一緒に楽しくやればいいのか。その方がいいような気がする。しかし、一方で確実に専門性が必要なことも多い。また、命や人生に寄り添う仕事に責任感や緊張感は欠かせず、職業人としては近所のおばちゃんのように関わるわけにはいかない気もする。

いつも悩むところだが、ここ

私の子育て奮闘記

『新生活スタート！』

た時に手を挙げられるか、式に参加出来るか等の不安があった。また学校では、授業中に座っていられるか、授業やクラスの行動についていけるか、等たくさん不安がある中でスタートだった。仕事と違い、前年度の経験はない、学校の先生との関係も新たに築き上げていくことが必要だった。

子どもとの時間を取るためにした退職の決断。私にとってみれば、ゼロからのスタートで、仕事を辞めて稼ぎがなくなることや社会的なこれまでの経験が生かせなくなることへの恐怖や、子ども中心の生活になった時に、ノイローゼになったりしないか等たくさん不安があった。

入学式は周りの心配をよそに、本人は自分の場面で手を上げ、そして、静かに座っていた。はじめての場所で混乱もせずよく座っていたと思う。その後の学校生活は、慣れるまで一緒に登校し授業をサポートする毎日。他の子と比べ、着替えや行動や学習で遅れていることはたくさんあったが、少しずつ身につけていった。

4月のある日、次男の手足口病が移り、発熱してうなされていることがあった。あまり熱でうなされることは少ない子なの

大友愛美（おおともよしみ）

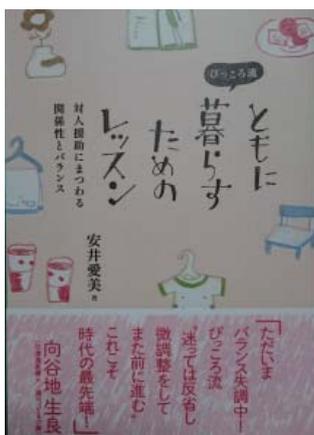
北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニティワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれない…、と感じている今日この頃です。

『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン

〈1,600円＋税 絶賛販売中〉

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



が本当の専門性の発揮しどころのように思う。自閉症支援の達人を目指していても、正しい支援をどうだと見せつけ、一般市民を寄せ付けないようなオーラを出すことだけが、唯一の正しさではないような気がする。利用者とのニーズやその場その場のありように合わせた態度の選択が、私たちの専門性を超えた専門性なのだ。近所のおばちゃんにもなれるし、バリバリのエキスパートにもなれる。そして、どのあたりのバランス感がこの場にふさわしいかで態度を決められる。そんな支援の達人になりたい。

※この原稿は、Juntos (フントス) C.L.C.発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

で、私からのプレッシャーが本人を苦しめているのではないかと思った。次の日熱は下がったが、「休んでもいいんだよ」という私に「学校行きたい!」と言って、学校にいった。

こんな出来事を通してながら、今まで子どもと関わっていたように、全然子どもを覗いていなかった自分に気づく。本当に子どもはたくさんの方と伸びる可能性があるんだなど、毎日毎日実感し、どうすればその力を伸ばせるかを考える日々。

あたりまえだけど、今までの仕事のやり方などとは違う、うまく表現できないのだけれど、新たな自分への変革を求められている気がしていた。

おとめ

発達の違いを持つ2児の母。16年続けた社会福祉の仕事に辞め、家庭で子どもの力を伸ばすこと、地域で生きることを考えながら日々奮闘中。

つれづれなるままに

師走とは思えないほど暖かい日が続いているが、これも、南米ペルー沖の海水温が上昇するエルニーニョ現象によるものか、例年よりも広い海域で発生し、ゴジラ級とも言われている。こうなると、暖冬傾向で雨が多く、南岸低気圧が発生しやすいということである。南岸低気圧は風雨が強く、気温も急速に下がるので太平洋側の沿岸地域は降雪にも要注意である。

さて、12月2日(水)・3日(木)と(公社)日本認知症グループ協会・関東甲信越ブロック9都県による実践発表会・新潟大会に参加させて頂いた。燕・三条地場産業振興センターを会場として約200人の参加者を得て盛大に開催された。本会からは、生活支援課長の黒田(五根の家・計画作成担当者・ケアマネージャー)が、日頃の実践について発表し大きな評価を頂いた。

本年は実行委員会の意向もあり、様々な取組事例の発表としたいと事前のお話を頂いたもので、内容は各分野に分かれて興味深いものであった。

黒田の発表は、「地域との連携・協働による、生きがい(就労)支援について」で、大会参加者の多くの共感を得ることが出来た。

内容を要約すると、江戸時代から続く伝統ある地域のお祭りに利用者が参加することによる“生きがい”を支援するとともに、事業所としても地域の一人として炊き出しなどのお手伝いを行っている実践と地域もそれを温かく包み込んでくれるという双方の関係が構築されている事例で、五根の家の地域の方々の温かさや寛容さが会場の多くの参加者の共感を頂いたもので、運営推進会議を通じて地域との輪を地道に広げ交流を続けて来た成果でもある。また、“生きがい”支援の一環として、地域の特産である落花生を

利用者と共に加工し、圏域での行事等で販売し、その利益でみんなが美味しいものを食べるという実践も報告し、これも沢山人達から評価を頂いた。



基調講演の講師、認知症介護・研究研修東京センター研究部長の永田久美子氏も講演で、高齢者の施設は生産をするということが無いので、地域との交流・地域からの支持・応援をして頂く取組が求められるというお話もあったので、「五根の家」の実践していることが参加者とコメンテーターの高い評価を頂いたのではないか。これも、五根の家の職員のチームワークと地域の福祉力が旨く融合している結果で、日々の努力が着実に実を結びつつあるということなので、これからも地域のご支援を頂きながら進んで参りたいと考えている。

最後に、本会が運営する「鶴嶺の家（高齢・障害）」、「鶴嶺の家（児童）」、「子ども支援センターぽけっと」、「サポートセンタースピリッツ」、「五根の家」 「就労支援 B 型事業所ハンドワーク（カバの家、ありさ）」、「街かど福祉相談室」と「及び、そのサテライトとしてサンピア



に開設した「地域福祉情報・相談センターりんく」の各事業所について、地域や行政、多くの関係者の皆様方には、1年間多大なご支援とお力添え賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

（総合施設長 齊藤 操）

コミュニティケアワーカー講座

主催：NPO 法人ちば地域密着ケア協議会
 会場：千葉県経営者会館・研修室
 定員：30 名
 参加費：無料
 申込方法：お電話でお問合せください。
 連絡先：043-244-2601 / 大石

◆平成 28 年 1 月 14 日（木）

第 6 回 9:30 ～ 12:30

「地域・当事者・家族の組織化支援」

講師：来島みのり（マザアス新宿・施設長）

第 7 回 13:30 ～ 16:30

「地域の多様な人を支えるケア」

講師：加藤忠相（あおいけあ・代表）

◆平成 28 年 2 月 24 日（水）

第 8 回 9:30 ～ 12:30

「地域連絡会と自治体の協働の取り組み」

講師：黒岩尚文（浪漫・代表）

第 9 回 13:30 ～ 16:30

「地域密着型サービスのあるべき姿」

講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）



きもの地サロン

着なくなった着物をほどこぎ、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。

開催日：1月11日（月）

1月25日（月）

※興味のある方は、連絡ください。

鶴嶺の家（50 - 0285）

ヨガサロン

健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

開催日：1月6日（水）

1月20日（水）

※興味のある方はご連絡ください。

ありさ（50 - 0362）

穂垂るの会

介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。

開催日時：1月14日（木）

13:30～15:30

会場：ふれあいセンター

経費：200円（お茶代）

主催・連絡先：穂垂るの会・井上
(090-7171-1701)

ときがね・街かど福祉塾

2011年2月より休止していた、「ときがね・街かど福祉塾」を4年半ぶりに再開いたしました。

今回のテーマは、地域共生ケアです。高齢者ケアを軸として、多様な人達との関わりから地域共生ケアを考える会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）

第3回

「共に支える介護とは（高齢者×障害者）」

日時：平成27年12月18日（金）

17:30～20:30

会場：東金市商工会館

講師：阪井由佳子（にぎやか・理事長）

鈴木翔太（やちまた放課後クラブ
ぶらんこ・施設長）

第4回

「共に支える介護とは（高齢者×生活困窮者）」

日時：平成28年1月15日（金）

17:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：高橋信也（冬月荘・代表）

沖山陽子（セブンエイチ・理事）



第5回

「人がひとを支えるとは」

日時：平成28年2月3日（水）

17:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：大友愛美

（ノーマライゼーションサポート
センターこころりんく東川 副理事長）
伊藤英樹（井戸端介護・代表）

第6回

「地域を支える介護とは」

日時：平成28年2月19日（金）

17:30～20:30

会場：東金市商工会館

講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）

安西順子（ひぐらしのいえ・代表）

ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

木枯らしが身に染みる季節となりました。皆さんは、いかがお過ごしですか。鴉嶺の家ではこたつの代わりにストーブが大活躍、おかげで寒さをしのげみなさん快適に過ごすごうできています。先月号で心配していたAさんも寒さに負けず、スタッフのお手伝いをしっかりと行ってくれていますよ。

寝たきりの状態が続いたおじいちゃんでしたが、元氣を取り戻し、近所を散歩してきました。押し車の代わりに車いすを押し

て散歩してきたのですが、押し方がとても上手いんです。工事現場で使う一輪車のようにウイリーしてみたり、バックしてみたり、やはり歳をとつても昔から使っていたものの感覚は覚えているんだなと再確認させられました。

Yさんはスタッフと一緒にあんまん作りに挑戦しました。あんこがいっぱい入つてとても美味しかったです。次は何を作ってくれるのかとても楽しみです。

寒い日が続きますので、みなさんも風邪等お体お気を付け下さい。

鴉嶺の家（児童）

風邪の季節がやってきました。今年は咳をする子たちが目立ちます。外から帰ったら、手洗い・うがいを心がけています。うがいの習慣付は難しいです。うね！自分からうがいをすることは少なく、毎回の声掛けが必要です。

上を向いて喉で『ガラガラペツ！』が出来る子・お口の中で『グチュグチュペツ！』が出来る子・口に含むだけで出す子・時々水を飲み込んでしまうこともありつつ、それぞれのうがいをしています。

手洗い前にすぐに袖をめくるAちゃんは、手洗いが大好きな女の子。洗いに行くと分かれると満面の笑みを見せてくれます。めくつたはいいけれど、手洗い後に中々トレーナーの袖を下ろせず、ついにはイライラして叫び出すB君。

石鹸を手にしても、手をこすらずそのまま水に流してしまうE君は、スタッフがさかさず止めに入ります。石鹸ポンプを押し続けて楽しむFちゃんは油断がなりません。スタッフがピツタリ張り付いています。

スタッフ共々みんな元氣に、素敵なクリスマス＆年末年始を迎えられるようお願いしています。

子ども支援センターぽけっと

今年も玄關脇のイルミネーション（ささやかなものですが）が、灯る季節になりました。それを見た子ども達がどんな表情を見せてくれるのかとても楽しみです。Yちゃんは満面の笑顔かな？Rくんは怒るかな？Kくんは「もつと色々な物を飾つた方がいいよ」と手紙をくれるかな？などスタッフ間で話が盛り上がっています。言葉で複雑な気持ちを伝えるのは難しいけれど体の動きや声のトーン、ちよつとした仕草からでもその思いは充分伝わってきます。

先日Aくと「みんなのうた」という番組を見ていたところしんみり家族を思う唄を聴き、不覚にもウルツときてしまいました。慌ててそれを隠そうと笑顔で「良い唄だね」と話しかけたら私の顔を覗き込み静かに笑いました。膝の上にポンと手を置いてくれました。励ましてくれたようなAくんのとても優しい気持ち

伝わってきて心が温かくなりました。「ありがとう」と言うともたまたま静かに笑っていました。

サポートセンタースピリッツ

今年も残すところあと1ヶ月。スピリッツでは今年も多くの場所に出掛けることができました。横浜、大宮の鉄道博物館、幕張新都心のイオンモール、アリオ蘇我、東京スカイツリー、千葉動物公園、プラネタリウム、渋谷、デイズニーシー、サンライズ九十九里のプール、東京ゲームショー、大恐竜展、銚子の犬吠埼等。たくさんのお思い出に付き合わせて頂くことができました。

他の事業所のスタッフからはスピリッツはツアーコンダクターみたいですね、と言われましました。

「楽しく外出できる」お手伝いが少しではありますができたのではないかと思います。今ではご家族の方が担っていた部分

をヘルパーが行い、障がいがあっても気軽に外出できる。来年も「楽しいおでかけ」が出来るよう私たちも色々なことを学んでいきたいと思えます。もちろん居宅の支援も行っておりますので、お気軽にご連絡ください(^-^)

街かど福祉相談室ると

るととは立ち上がりから2年半、現在の体勢になつてから1年が経とうとしています。当初は数名であった利用者数は3桁を越えました。利用出来る事業所の数も増え、サービスを利用する段階で選択肢も広がりました。とはいっても、十分に足りている訳ではありません。自分に合ったサービス事業所がないなあと思つている方も少なくないと思えます。私たちも相談を受けている中で、「こんな事業所があればなあ」「こんなサービスが利用できればなあ」と日々感じています。

サービスを利用する上で障害の種類は問わないのは前提ですが、車椅子だと使い勝手が良くない、通いたくても移動手段が確保できないなど課題は多々あります。すべてが上手くいくのは難しいですが、なるべく皆さんの希望に近い形でサービスが利用出来るように一緒に考えていきたいと思っています。

ハンドワーク

今年の秋の販売も残すところ12月6日のチャレンジフェスタのみになりました。嬉しいことに今年も声をかけて頂き、今回は思い切つてスタンプラリー対象店としての参加を予定しています。利用者さん方には、スタンブ係をお願いすると嬉しそうに『こうでしょう』と色々な身振り手振りでスタンブを押す練習をしてやる気満々の様子です。

当日はたくさん売れるように頑張りたいと意気込みが伝わっ

てきます。

11月は、東金特別支援学校のやまもも祭にお邪魔してきました。当日は生憎の雨でしたが、多くの方に声をかけて頂きました。多かつたのは利用者さんのお知り合いの方々に「元氣？」「お久しぶり、頑張ってる？」等々、立ち寄って下さいました。その中でSさんは嬉しさのあまり、大はしゃぎしたりとたくさん元氣を分けて頂いた1日でした。

かばの家

今年の秋の学校祭シーズンは袖ヶ浦特別支援学校、東金特別支援学校、日吉台小学校の3カ所だけでした。昨年まで参加していた長生特別支援学校や県立千葉特別支援学校は学区が違うということで参加出来なくなつてしまいました。その分3校ではたくさん作って売りましよう、と言うことになり皆で頑張りました。東金では300個

以上売ることができ、皆も喜んでいました。日吉台小学校ではゲームもして楽しんできました。今年もあと1ヶ月になってしまいました。カバの家では作品展用に来年の干支の猿をイメージした飾りパンを作ったりクリスマス用のパンやチョコケーキを作ったりします。上手に出来るかどうか分かりませんが頑張って作ってみたいと思います。

ありさ

今回は、めでたくありさを卒業し12月からA型事業所へ就職が決まったSさんについて書きたいと思います。

Sさんは、人と接するのが大好きで、人の顔や名前をすぐに憶えてしまいます。ただ「○○さん」と敬称を付けるのが苦手です、言えません。つまり呼び捨てになってしまいます。色々な人と呼ばれていくのですが、自分より年上の男性職員だけに「○○パパ」と。しかも、好

きな職員ともなると甘い声で「○○パパ♡」と呼びます。甘えたい時ですが一緒に仕事を頑張った時、隣にいる男性職員の手をそつと握り、そして優しく撫でながら「パパ、ねっ♡」と言っています。とても微笑ましいです。

そんなSさんには夢があります。それはお金を貯めて好きな人たちと沖縄でカレーを食べる事と、35歳で免許を取り、青の車（ホンダのフィット）を運転する事です。夢が叶うといいね！Sさん頑張れ！卒業おめでとう！

五根の家

◆小規模多機能ホーム

前回のちばしゃ通信でふれさせていただきました落花生の殻むきですが、みなさんのお力をお借りして商品化に向けて順調に進んでいます。

こたつの上に落花生を置きそこを囲むようにお年寄り、ス

タッフとお茶を飲みながら和気藹々と殻むきをしています。みなさんの集中力は凄まじいものであつという間に置いてあつた落花生の殻はむかれており、『早く次の持つてきてよ』とおっしゃる方もいれば、『私は食べる専門だからみんなの監督をしてるの。』と場を和ませる方もいたりとおもしろい雰囲気です。

あるお年寄りの方は昔、落花生を出荷していたこともあり、スタッフにコツを教えてくださいますが、あの手さばきは長年の経験からくるものだと感心しております。

みなさんの愛情のこもった落花生を食べるのが楽しみです。

◆グループホーム

11月に入り冷え込む朝には一時的に居室に暖房調整をする日も出て参りました。そんな11月10日、開所からの利用者Aさんが入院されました。早々の対応とご家族のご協力あつて現在は

快方に向かわれ遠くない退院の日とスタッフ一同心待ちにしています。

その後のある朝の事、Aさんが座るソファの並びにいつもおられる利用者さんが、ご自分でお茶を入れて、Aさんのテーブルとその向かいの利用者さんへもはい、どうぞ…と。今日はまだ起きてこないね。まだ寝てるんじゃないの？とお二人の会話。

いつもの時間、いつもの空間にお年寄りは自らの世界観・日常の中でそのひとときを過ごされています。あなたも飲む？と言われ、ごちそうになりました。11月7日かねてからプランを練ってきたHさんの帰宅が実現しました。ご自宅まで車窓より旧道の街並みにこのあたりはね…と話して下さいました。ご家族と昼食を召し上がられ、数時間ではありますが、ご本人の意向に寄り添い今後実現できたから何よりです。

営業…午前10時～午後8時

場所…東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容…福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、本会ま

で相談ください。

(月)金/午前10時～午後5時)



【ご報告とご挨拶】

ご利用者・ご家族の皆様、地域の皆様、福祉・介護関係者の皆様、ご報告が遅くなってしまいました。去る11月19日、当法人の代表理事三人にうちの一人、筒井眞六(享年73歳)が永眠しました。ここにあらためて生前の御厚誼に深謝し心から御礼申し上げます。

この後は、宮下裕一・松本誠康が中心となり、役員員一丸となって、故人の意思を継いで、質の高いサービスの提供とサービスづくり、福祉なまちづくりにしっかりと取り組んで参りますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表理事 宮下裕一

代表理事 松本誠康

【会員からのメッセージ】

◆それぞれ意見や立場が違う人たちが集まった会議で、それぞ

れの意見が出尽くして、袋小路に入ってしまうようなときに、いつも筒井さんが、「みんながハツとする」「既成概念とらわれない」視点で、問題の本質に切り込み、そして、軽々と道すじをつけてくれる姿をみて、底

の見えない筒井さんの力をいつも感じていました。まだまだ長生きしてもらいたかったです。もつともつというんな話しを聞きたかったです。ご冥福をお祈りいたします。(加川加寿葉)

◆約2年半療養生活のお手伝いをさせていただき、最期も見守ることができました。苦しまず、眠るような最期でした。病気になるってからずっと我慢していたお酒やタバコを天国で思う存分楽しんで欲しいなと思っています。(二瓶貴子)



故 筒井 眞六

編集者のつぶやき

設当初からの役員が、またひとり旅だってしまいました。そんなに急がなくてもよいのに…。「鶉嶺の家」開設当初の役員会の後は、決まって翌日まで飲み明かしました。あの筒井節をもう聞けないのは、本当に寂しい…天国の土肥さんと一杯やりながら、見守っててください。(Jerry)

あと2週間程で1年が終わってしまいますね。今年は今まで以上に1年がとても短く感じました。利用者さんとも関わる機会が増え、去年よりもたくさんの顔が見れたことをとても嬉しく感じます。残りの2015年もやり残すことがないよう1日1日を大切にしていきたいです。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.14)

発行日：2015年12月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630